

TWI - 4 J

10時間訓練講習会

監督者クラスを対象にした教育訓練には色々ありますが、中でもこのTWIは、最もオーソドックスな訓練です。「TWI」というのは、Training Within Industryの省略形であり、直訳すると、「産業内訓練」となりますが、これを「監督者訓練」と意識して名付けたものであり、その名の通り監督者向けに作られた訓練です。

第2次世界大戦中、アメリカでは有能な職長たちが数多く前線へと徴用され、各社各工場では監督者不足から次第に生産への影響が出始め、後任者の育成が急務となりました。そうしたところへ新任監督者を短期で育成する合理的訓練方法としてあらわれたのがこのTWIです。各社とも先を争ってこれを取り入れることによって、この急場をしのごことに成功したのです。そんなことから、第2次世界大戦において連合軍が勝利をおさめた要因のひとつに、この時のTWIが大きく役立ったと、その功績をたたえる人も多いのです。

このTWIは、第2次世界大戦後進駐してきた米軍から労働省（現：厚生労働省）を経て導入されましたが、「仕事の教え方（JI）」「人の扱い方（JR）」「改善の仕方（JM）」の3コース（これを「3J」と言います。）から成り立つもので、企業内訓練の中でも最も標準化ができていて、いづれも10時間で教えるように仕組みられています。

その後、「安全作業のやり方（JS）」というコースが日本産業訓練協会が開発され、合わせて4コース（これを「4J」と言います。）が、職業能力開発促進法施行規則にも明記された監督者訓練です。

日本への導入にあたっては、労働省（現：厚生労働省）が管轄していましたが、その後日本産業訓練協会と中央職業能力開発協会とが委託されて普及につとめていて、地方でも、群馬県経営者協会がもっとも早くから手がけています。

各コースとも下記の「4段階法」という技法を用いています。それが書かれたカード（胸ポケットに入るくらいの大きさのもの）がありますので、職場に戻っても簡単に振り返りができるようになっています。

回 TWI - 4 J 4段階法

JI (仕事の教え方)	JR (人の扱い方)	JM (改善の仕方)	JS (安全作業のやり方)
第1段階 習う準備をさせる	第1段階 事実をつかむ	第1段階 作業を分解する	第1段階 事故となる要因を考える
第2段階 作業を説明する	第2段階 よく考えて決める	第2段階 細目ごとに自問する	第2段階 対策を考えて決める
第3段階 やらせてみる	第3段階 処置をとる	第3段階 新方法に展開する	第3段階 対策を実施する
第4段階 教えたあとをみる	第4段階 あとを確かめる	第4段階 新方法を実施する	第4段階 結果を検討する

回講座内容

TWI - J I (Job Instruction) = 仕事の教え方

TWI - J Iとは、正しい仕事の教え方を身に付けるための訓練です。「言っただけ」や「やって見せるだけ」というのではなく、正確に、安全に、そして良心的に仕事をやるように、しかも速く覚えさせる方法で教えることのできる技能をいいます。そのためにまず、教える前の「用意の仕方」として、①訓練予定表を作る、②作業を分解する、③全てのものを用意する、④作業場を整備する、ことの必要性を理解し、正しい教え方として「教え方の4段階」を身に付けます。訓練の方法としては、実際の職場の作業を使い、受講者が実演を通して理解できるようになっています。また、監督者自身のあり方として「相手が覚えていないのは、自分が教えなかったのだ」と常に戒めています。

TWI - J R (Job Relations) = 人の扱い方

TWI - J Rは、正しい人の扱い方を身に付けるための訓練です。

監督者は部下を通じて成果をあげなければなりません。そのためには、部下はもちろん周囲の人との関係を常日頃から良くしておく必要があります。「人との関係を良くするための基本心得」は、職場の問題を未然に防止するのに役立ちます。しかし実際に問題が起こったら、監督者として「問題を解決する能力」が必要となります。

「職場の問題の扱い方」の4段階法は、状況を的確に察知する能力を高め、人間関係を良くし、職場の能率を向上させるのに極めて有効です。

TWI - J M (Job Methods) = 改善の仕方

技術進歩の多くは、監督者の改善の結果生まれたものです。まず改善とは「現存の労力、機械および材料を最も有効に使うことによって、短時間により品質のものを多量に生産するのに役立つ実際的方法」であることを確認します。

次に、作業を細かく分けてしらべることにより、その作業の細目を取り去り、結合し、順序を組み替え、あるいは簡単にしたりして改善を行う、という技能を身に付けます。実際、この講習会からたくさん改善事例が生まれています。

TWI - J S (Job Safety) = 安全作業のやり方

まず、「安全とは事前に対策を考えて処置することである。起こってから事後処置ではない」ことをはっきりと認識することから始まります。次に、災害事例について「災害連鎖方式」という原因分析を行い、それにより事故や災害がなぜ発生するのか、そのプロセスを研究します。これは、事故や災害が、単に偶発的に発生するのではなく、必ず何らかの原因が影響しあって発生することを理解するためのものです。

また、全編を通して、安全推進のキーマンとして「人間の尊重」「要因の究明」に心掛けるよう強調しています。TWIではおなじみの4段階法も、「安全作業のやり方」として設定されています。

回実施要領 (※お申し込みは随時受け付けています)

対 象 : 初級監督者《職種・性別等問わず》

人 数 : 6~10名 (上限12名)

時 間 : 各コースとも10時間

【例】①2時間×5日、②2時間30分×4日、③3時間+3時間+4時間の3日

回過去の実施企業(順不同・敬称略)

サンデン、山田製作所、三洋電機、オリエント、八木工業、両毛システムズ、吉野工業所、電気化学工業、TI Automotive Japan Gunma、ケービックス、シー・アール・ケイ、富田電機、プリオコーポレーション、東毛福祉事業協同組合、桐生中小企業福祉事業協同組合、味の素冷凍食品、マック食品、第一石鹼、富士エンジニアリング、NSSカンラ、東京特殊硝子、古河ロックドリル 他